

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年4月28日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891500050		
法人名	有限会社 エム・エス・ティ介護倶楽部		
事業所名	グループホーム アテン中郷	ユニット名	1ユニット
所在地	〒319-1555 茨城県北茨城市中郷町小野矢指846		
自己評価作成日	平成27年10月24日	評価結果 市町村受理日	平成28年5月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0891500050-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0891500050-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年12月11日	評価機関 決 済 日	平成28年4月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

記憶や認知障害のため、生活に不安を感じている高齢者に安心できる生活を送れるように支援したいと考えています。お互いに助け合い、ふれあいながら、職員と一緒に生活する家庭的で、ゆったりとした自由で楽しい「あたりまえの暮らし」をサポートできるように支援したいと思います。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は自然に恵まれた小高い丘に立地し、利用者と職員は天気の良い日には事業所敷地内で食事会や散歩をして、田園風景の中で季節の移り変わりを感じることができる。  
事業所は老人会のカラオケボランティアや、中学生の体験学習などを積極的に受け入れ、利用者が地域住民と交流を図りながら住み慣れた地域で暮らし続けられるように支援している。  
代表者兼管理者は、高齢者を始めとする障がい者福祉に積極的に取り組みたいというビジョンを持っており、利用者が居心地よく生活できるよう地域の代表者や市の職員と連携を図るよう努めている。  
職員は一人ひとりに寄り添いながら熱心に支援し、利用者は家庭的な明るい雰囲気の中で穏やかな生活を送っている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、温かい家庭環境作りを心がけています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を作成し、玄関に掲示するとともに、職員会議や勉強会時に理念について話し合う機会を持ち、理解を深めている。 手引き歩行など、介助の方法にも暖かさが感じられるよう配慮し、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校との交流や地域の行事に参加しています。地域住民から野菜を頂いて、調理して美味しく食べています。	事業所は中学生の体験学習や月1回老人会のカラオケボランティアを受け入れており、利用者はボランティアメンバーと一緒にカラオケを楽しんでいるほか、近隣の小学校の運動会に招かれて見学に行っている。 近隣住民から野菜のお裾分けを頂いたり、管理者と職員は周辺の住民と草刈活動を行い、地域の一員としての役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れをしています。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回（奇数月の第3木曜日）に会議を開いています。利用者の生活状況や現状を報告し、意見や要望を受けて話し合い、希望にそえるように努めています。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域包括支援センター職員、地域住民の代表などで2ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。 会議では利用者の生活状況や事業所の現状、運営状況の報告をするほか、老人会長からの要望を受けて老人会のカラオケサークルを受け入れ、利用者との交流の機会を設けるなど、会議での意見を反映してサービス向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市で行われる勉強会や研修会に参加するようにしています。	管理者は日頃より市担当者と連絡を取り合い、電話だけではなく、必要に応じて直接市役所の担当者に出向き、入居の状況や医療やケアに関しての相談をして、アドバイスや提案をうけるなど連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し指導しています。危険防止のため、廊下に施錠をしていますが、家族に了承を得ています。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、代表者兼管理者は年1回マニュアルに基づいた内部研修会を実施し、職員が禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を正しく理解するよう努めている。 階段からの転落防止のため、玄関に通じる出入口を施錠しており、家族等に口頭での了解を得ているが、書面での同意を得るまでには至っていない。 身体拘束に関わる説明書や同意書、経過観察記録書等の書類を整備するまでには至っていない。	やむを得ず身体拘束を行う場合の「同意書」や「経過観察記録」、「再検討記録」などの書類を整備することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コミュニケーションを図り意志疎通を図るようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当する方がいません。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に必ず説明し、理解・納得をしてから契約をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、運営推進会議で要望や意見を聞き、希望にそえるよう努めています。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記して、契約時に家族等に説明している。 職員は利用者の意見や要望は日々のケアの中で直接聞き、食べたい物などを把握しているほか、家族等からの意見や要望は事業所を訪れた際に聞き取るようにしている。 家族等から「ドッグセラピーを取り入れて欲しい」との意見を受け、獣医師の許可を得た犬を譲り受けて利用者とふれ合えるように取り組むなど、出た意見を反映するよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回は職員会議を開き、意見を交換できるようにしています。	代表者兼管理者は、月1回の職員会議や食事作りの時間などに、職員から運営に関する意見や提案を聞く機会を設けている。 職員から出た意見を受け、利用者が混乱することのないように「持ち物チェック表」を作成するなど、出た意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	忘年会や暑気払いをして、親睦を図るよう努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市で行われる勉強会や研修会に参加しスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	必要性がある時は交流をもちますが、通常は交流する機会がありません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する際に、安心感や施設に慣れるように、家族や本人に了承を得て、あだ名や呼ばれていた名前と呼ぶようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設を見学して頂き、施設の概要を説明して理解いただき、不安なことや要望を聞いて話し合いをするようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活状況やADL状況など実態調査を行いながら支援する方向性を考慮し対応しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんだり、おやつ・食事の下ごしらえなど、レクリエーションを兼ねた生活リハビリを行っています。一緒に食事をしたり、日頃から話をしながら不安や悩み、好みや希望を聞くようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に受診を協力して頂いたり、支払いは現金精算にしてもらい、月に一度は面会できるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいた方には、積極的に来訪して頂くように支援しています。	職員は入居時のアセスメントで利用者のこれまでの生活歴を把握するように努めている。 職員は利用者の家族等や知人が訪ねてきた際には、お茶等を出してもてなし、居室などでゆっくり寛いでもらえるように支援しているほか、利用者が家族等と馴染みの店や美容院、外食などに出かけられるように連絡調整をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが生じた際には、お互いの話をよく聞き、利用者同士の関係が悪化しないように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が家族と連絡を取りながら、家族をサポートし連携をとれるようにしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が情報を共有し、把握し理解しながら個人にあったサービスを支援できるように努めています。	職員は利用者と日々の関わりのなかでコミュニケーションを図り、情報を収集して利用者一人ひとりにそった支援ができるように努めている。 自己表現が困難な利用者には、家族等に聴いたり職員が利用者本位に検討をしている。 把握した思いや意向を個人記録や申し送りノートに記載しているが、記録の個所等がわからず、職員間で共有するまでには至っていない。	把握した思いや意向をわかり易く記録し、全職員で話し合って共有することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族と話をしながら「これまでの暮らし」を把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や申し送りで情報を把握し理解するよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、個人にあった支援が出来るようアイデアを出し合い、意見を交換しています。	介護計画は職員が利用者や家族等の意見や要望を聴き、計画作成担当者が介護計画を作成しているが、カンファレンスを開催する際、必要な関係者と話し合ってそれぞれの意見やアイデアを反映するまでには至っていない。 介護計画は6ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しを行っている。 利用者の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	介護計画の作成には職員間で話し合いの場を設け、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを行い、個人にあった支援が出来ているか見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わって病院の付添いを代行しています。補聴器や福祉用具の事業所と連携を図っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域資源により、可能な限り参加できるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新たにみられる変化について、医師に詳しく報告をするようにしています。	代表者兼管理者は契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医を確認し、なるべく希望するかかりつけ医に受診できるよう支援をしている。 受診結果は、家族等が付き添う場合には帰着時に聴きとり、職員が付き添って受診した場合は、家族等に電話などで報告をするとともに個人記録に記載して職員間で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の指示のもと、適切な処置を行うようにしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの提出や退院時は相談委員と連携を取りながら対応しています。	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りも考えてマニュアルを作成しています。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、入居時に利用者や家族等の意向を確認して同意を得ている。 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合いを行い、事業所としてできることを説明している。 同時に、緊急時の対応や協力医療機関との24時間連絡体制を確保して連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で応急処置や緊急対応の手順を勉強しています。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域消防署の指導を受ける避難訓練や、自主避難訓練を年に1～2回は実施しています。	避難訓練は夜間想定を含め年2回実施しており、実施記録を作成するとともに、課題について話し合っている。 避難訓練に地元消防団の参加協力を働きかけている。 災害に備えて3日分の冷凍食品や米、飲料水、缶詰、カンパンなどの食料品のほかに、マットレスや毛布などを備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴、自室での着脱などプライバシーを考慮して支援するように努めています。	職員は利用者の尊厳やプライバシーを大切にし、家族等と相談しながら利用者が親しめる愛称で呼んだり、利用者の各居室のネームプレートは、個人情報への配慮から掲示していない。 個人情報の使用と保護に関する同意書を作成し、家族等へ説明すると同時に、書面にて同意を得ている。 個人情報に関する書類は、鍵のかかる事務室の書棚に保管して情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意見を尊重し、物事を押し付けないように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の話を傾聴しながら、個人にあったペースで支援するよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪したり、爪のお手入れや髭剃りをしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の状態に合わせて、食べやすいようにおかゆやキザミ食にしています。一緒に話をしながら食事を楽しんでいます。	代表者兼管理者自らが定期的に市場で買い出しをした国産の食材や、近隣住民から頂いた野菜や米などを活用して食事を提供している。 利用者は職員と一緒に、豆のヘタ取りなど野菜の下ごしらえや漬け物作り、おやつや蒸しパンやホットケーキ作りのほか、誕生会には利用者の希望に合わせてお寿司を取るなど、日頃から食事を楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態を観察し、水分補給を促したり、バランスの取れた食事になるように努めています。	/	
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行いチェックするようにしています。	/	
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、時間を見ながら声掛けを行いトイレ誘導しています。	職員は排泄記録表を基に、利用者一人ひとりの生活リズムや排泄パターンにそって、さりげなくトイレへの声かけをし、トイレで排泄ができるよう支援している。 トイレは車いす対応で広く、手摺が設置されており、介助が必要な状況でも排泄の自立に向けた支援ができるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事を工夫したり運動をするように促しています。場合によっては医師に報告し下剤の調整をいただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日、時間、順番はある程度決定していますが、入浴剤を入れたり冬至には柚子を入れたり、色や香りを楽しんでいただく工夫をしています。	週3回午前と午後の入浴を基本としているが、利用者の意向や状況に応じていつでも入浴やシャワー浴ができる体制になっている。 入浴に負担を感じている利用者でも楽しむことができるように、一人ひとりに合わせた声かけのほか、毎回入浴剤を使用して入浴が楽しめるような支援にも取り組んでいる。 浴室は必要箇所に多数の手摺を設置したり、車いすでの対応やシャワーチェアを備え、利用者が安全に入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースに合わせて声掛けをし、安心できる雰囲気を作るようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・副作用などは個人ファイルに添付し職員全員で把握し理解できるようにしています。誤薬や飲み忘れがないようにチェックリストを作成しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意、能力、好みを把握し理解して、楽しく過ごせるように個人にあった支援ができるよう努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域交流のため外食等を行うようにしています。	気分転換ができるよう、利用者と職員で公園に出かけるなど、外出を楽しんでいるほか、日頃から庭に出て犬とふれ合えるよう支援している。 利用者の要望を受けて職員がスーパーに同行し、好きな食品の買い物を自由にできるように支援したり、花見や近隣のホテルへランチに出かけて利用者の好みの食事を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で立て替えるので、個人的に金銭は所持していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りもできるように代筆等も行うようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の行事によって飾りつけをしたり、写真を掲示するなど居心地よく過ごせるように工夫しています。匂いが気にならないように、トイレや玄関には芳香剤を置いています。	利用者が思い思いの場所で寛ぐことができるよう、居間にソファを配置するとともに、壁面には利用者のクリスマスツリーの貼り絵作品や利用者と職員で制作したおり紙作品、行事の写真などを掲示し、季節感のある明るい空間となっている。 居間兼食堂に加湿器付き空気清浄器を配置し、ウイルスによる感染症予防に留意している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にドアがあることによって、本人の思い思いの空間で過ごせるようになっていきます。リビングで雑談したり、くつろげるようにソファやテレビが設置してあります。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物を持ってきてもらい過ごしやすいよう工夫しています。	居室にはカーテンやベッド、エアコン、整理箆が備え付けられている。居室は日当たりが良く、冬でも快適に過ごせる環境となっている。管理者は使い慣れた物品を持参してもらえよう、入居時に家族等や利用者に説明している。利用者は毛布や枕、位牌、テレビなど、馴染みの物品や気に入った品を持ち込み、居心地よく暮らせる居室となっている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを付けたり、自室がわかりやすいようにドアに目印をつけたり、カーテンの色を変える工夫をしています。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが ○ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと ○ 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム アテン中郷

作成日 平成28年5月12日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	入居者に対して、職員の理解と把握が統一されていない	職員全員が共通して理解し把握できるようにスキルアップを目指す	研修の参加や勉強会を開き、一人一人に合った支援が出来るように話し合い、理解と把握に努める。	3か月
2	23	入居者間のトラブル、不安やストレス、悩みを抱えている	入居者が抱えている問題を解決し、楽しく過ごせるようにする	入居者の話を傾聴し、カンファレンスを開き問題解決策を考案し実行する。 趣味や外に出るなど気分転換できるように取り組む。	3か月
3	26	入居者がより良く暮らす為の課題とケアの在り方に統一性がない	バイタルサインや排泄食事など体調管理を行い、毎日健康で楽しく過ごせる環境を整える	家族とコミュニケーションを図りながら、差し入れの管理や現状について相談をする。アイデアを出し合いその人に合った健康管理に取り組む。	3か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。